



犬山

## 23 雨二題

対幅

川村曼舟

大正十一年(一九二二)

絹本着色

各八四・〇×一一四・四

愛知県の名所を描いた本作。右幅「犬山」の黒々とした墨色と、左幅「蒲郡」の蒼々とした緑色が好対称をなすが、いずれにも雨に濡れた湿潤な空気がたくみに表されている。白帝城と称され、名城の誉れ高い犬山城。本作に描かれた天守は現在の姿とやや異なるが、これは昭和三十四年(一九五九)に伊勢湾台風の直撃をうける前のものである。

一方、三河湾に浮かぶ竹島と蒲郡の一带は、波の穏やかな保養地として多くの旅客に愛されてきた。竹島には真白い鳥居が描かれる。これは「大正四年九月奉建」の刻銘をもつもので、現在では石材の地色が露わになっている。本作と同年に発表された、竹島を臨む旅館・常盤館を舞台にした菊池寛の小説『火華』では「島に祀つてある弁財天の白い鳥居が、キラキラと日に輝く」と記述されており、本作の描写と一致する。

本作は大正十一年(一九二二)の第四回帝展に出品され、宮内省に買い上げられた作品で、各幅に落款「曼舟」と朱文印「士昭」がある。川村曼舟(一八八〇～一九四二)は京都出身の画家。山元春挙が創設した早苗会を後継した高弟で、春挙から継いだ円山四条派の画風に、さらに抒情的な味わいを加えた風景画を多く遺している。





蒲郡

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社アイワード  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan